

筑波山調査レポート(2)



古代筑波研究会・主任研究員

宮本 造徳

はじめに

平成16年7月28日に、イワクラ学会・副会長の鈴木旭先生が、再び筑波山に調査において下さった。コースとしては、前回の調査(5月8日)に回る事ができなかった「飯名神社」や「月水石神社」である。この二社は、筑波山参道の東街道(メイン)の筑波山の参道)ではなく、その西側にある街道沿いの神社である。そこは、7月10日に調査したところ、磐座の可能性がある巨石を発見することができた。今回は鈴木旭先生に、その巨石を見ていただいた。このレポートはその調査結果を報告する。

飯名神社の磐座

今回(7月28日)の調査では、7月10日に調査発見した巨石(写真1)をみていただいた。これは非常に大きなもので、この岩の上には、飯名神社の御祭神(注1)である豊受稻荷神社が建てられていた。稻荷神社は後に建造されたものであ



写真1：磐座と思われる巨石

るが、この下の巨石は磐座の可能性があった。今回の調査では、この巨石は磐座かどうかという事は断定できなかった。時間的な制約もあり、岩が大きくかつ全体を調査することができなかったため、次回以降に持ち越された。

しかし、この巨石とは別な磐座(写真2)を発見することができた。飯名神社参道の入り口から、少し左の方へと入った林の中に、ある一つの巨石に鈴木先生は注目した。この岩

の正面(注2)を探してみると、ちょうど真南側が正面にあたり、その反対側の真北の方角に対して岩が向いているのである。さらに、この磐座から真北にむけて直線を引いていくと、別の磐座にぶつかるはずであると言うことである。

この岩の形状は、中央部分が窪んであり、女性器のような形をしている。『古代筑波の謎』の中でも紹介さ



写真2：今回磐座と判明した巨石

れている、女性信仰の磐座と言え
てであろうとのことであった。鈴木先
生によると、このような女性信仰の
磐座は、近くに水源があるはずであ
り、その水源の守り神として信仰さ
れていた可能性もあるとの事であっ
た。

ここからは、私の推測であるが、
地図で位置関係を確認していくと、
この飯名神社の上にある月水石神社
の磐座か、もしくは、筑波山山頂の
立身石にぶつかる可能性があると思
われる。

この磐座の北にある、別の磐座を
特定する必要があるということがわ
かった調査であった。ここから、筑
波山の中にある磐座と関係がある
ということであった。

月水石神社の磐座

月水石神社は、飯名神社から少し筑
波山を北のほうへ上がった所にあり、
人家の裏側にひっそりと存在してい
る。この神社は月水石（写真3）を
祭神として祀っている。

鈴木旭先生によると、

「月水石神社の拝殿は南側を向いて

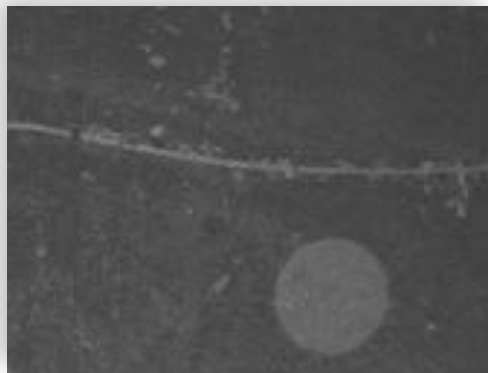


写真3：月水石

いるので通常の神社の建て方である。
しかし、磐座の正面はどこかと言
うと北東側を向いており、位置関係
としては、南西側にある磐座からこ
にぶつかるはずである」

とのことであった。この南西には中
菅間遺跡（注3）と言う祭祀遺跡が
あり、この月水石に向かって、筑波
山南西側にある人の居住区（中菅間
遺跡）から、祭祀を行っていたであ
ろうと考えられるのである。

また鈴木旭先生によると、月水石を

中心にあるていど規則的に小さな岩
が並んでいる。これは、環状列石（ス
トーン・サークル）の可能性がある
ということであった。詳しく説明す
ると、月水石の周り、約半径2〜3
メートルに内円があり、約半径5〜
8メートルのところを外円がある。
このような二重の円を持ったスト
ーン・サークルである可能性がある。
この月水石の北西側には平らな土地
があり、ここで祭祀を行っていた可
能性もある。

いずれにせよ、この月水石を中心と
したストーン・サークルの可能性を
判断するためには、より精密な測量
をする必要があるということがわか
った。

夫女ヶ石

夫女ヶ石（写真4）でも発見があ
った。今回初めて、夫女ヶ石の前に
ある小さな石（写真5）の方角を測
つてみると、この石は真北の方角と、
真東の方角をさしていたのである。

この事実から、方位石の可能性があ
るということであった。この夫女ヶ
石を中心とした、付近の磐座の關係

を表す方角を指し示しているのでは
ないだろうか。この石の真東と言
うと、表筑波スカイラインの風返し峠
付近を指しているのである。5月の
調査では、この夫女ヶ石はペトログ
ラフであり、片方が目玉岩として存
在しているとのことであった。この
目玉がみているのが、女体山の方角
であった。そして、目玉岩の近く
は、必ずと言って良いほど水源地が
あるそうである。しかも、目玉岩の
近くでは雨が降りにくいとの事であ
った。

これらのことから、私が推測する
と、夫女ヶ石を中心とした雨に関す
る遺跡を、この方位石は現している
のではないだろうか。雨が降りにく
いというのは、この筑波山の形状に
よって、雲の動きに影響を与え、こ
の夫女ヶ石付近には雨が降りにくい
のではないか。しかも、その影響を
与えているのが、風返し峠で、それ
を方位石が指し示しているのではな
いだろうか。これも、正確な測量に
よる裏付けが必要であると思われる。

終わりに

今回の調査では、以前から磐座として見ていた巨石が、複数の磐座同士で、結びついているということがわかったのである。筑波山の西街道側の神社にある磐座は、筑波山の西側の祭祀遺跡と関係がありそうだと



写真4：夫女ヶ石

うである。もし、そうだとしたら、今回は調査できなかつた六所地区のお宝山の磐座は、どのように結びつけることが出来るのであろうか。更に詳細な調査が必要であるということがわかり有意義な調査であった。

注意

1・この神社の祭神は、受気母知神



写真5：方位石

三座となっている。受気母知神は、保食の神ということで、食をつかさどる神であり、稲荷神社に多く祭られている。明治9年に、飯名神社は、村内にあった、楯野、日枝、八坂、白山、赤山、熊野神社を合祀した、それに伴って、イザナギ命・イザナミ命・スサノヲ命・大己貴命・金山毘古命を祀ることになった。

2・鈴木旭先生によると「祭祀遺跡に関しては、どちらが正面になるかということが非常に重要な問題である。」正面で祭祀を行い、正面の反対側に祀る対象がある。

3・『筑波町史 上巻』筑波町教育委員会編 P189 参照。